

平成30年度 生徒指導部会研究計画

1 研究主題

子どもたちが集団の一員として自己実現をめざす生徒指導
～ 学業指導に視点を当てた自己指導能力の育成 ～

2 研究主題の設定について

今日の社会は、あらゆる分野で、知識基盤社会の進展・高度情報化・グローバル化が急速に進行している。また、少子高齢化に伴い、生産年齢層が減少し、社会構造も激変しつつある。さらに、地域や家庭の教育力の低下が、規範意識の緩みや人間関係の希薄化をもたらし、様々な社会問題の原因となっている。このように高度化・複雑化する社会の中で、子どもたちには、個性を発揮し、主体的・創造的に生き、未来を切り拓く力を身につけることが必要である。

生徒指導は、子ども一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的資質や行動力を高めるとともに、子どもの健全な成長を促し、現在及び将来における自己実現を図っていくために必要な自己指導能力の育成を目指して行われる教育活動である。自己実現とは、単に自分の欲求や要求を実現することにとどまらず、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築き、自己のよさを集団や社会の中で生かしていこうとするものである。

これまでの県生徒指導研究大会では、自分自身をしっかりと見つめ、自己に対する洞察を深めることを基盤とし、他者とのかかわりの中で、自ら選択・判断・実行し、その言動に責任をもつことができる力（自己指導能力）を育成するために、前回の和田島大会まで生徒指導の3つの機能（①自己存在感を与えること、②共感的人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を支援すること）を生かした教育活動について実践・研究に取り組んできた。

平成30年度においても子どもたちが集団の一員として自己実現をめざすために、この3つの機能を基盤として研究を進めていく。同時に、生徒指導提要に示されている「学業指導」に着目し自己指導能力の育成を図る。学業指導とはそれぞれの学級を「学びに向かう集団」に高めながら、児童生徒一人一人が自らの力で様々な不適応を解消し社会性を身に付けたり、主体的・対話的で深い学びの学習活動に取り組んで学力を向上させたりして自己実現（社会的自立）を図っていくための指導・援助のことである。これは「集団の中で学ぶ」という学校教育の特質を生かして、児童生徒一人一人を成長させるという考えに立つものである。そのためには、集団への帰属意識を高め、お互いを高め合うことができる「学びに向かう集団づくり」が重要となる。また、子どもたちのコミュニケーション能力をはぐくみ子どもたちが自信を持てるようになる「子どもたちが意欲的に学習に取り組む授業づくり」も重要となる。そこで、平成30年度は、「集団づくり」と「授業づくり」の関連を図りながら、自己指導能力の育成に関する研究に取り組むたい。

また、学校の抱える生徒指導上の問題は多種多様である。個別に支援が必要な子どもへの課題もある。県内の様々な地域や学校の実態や実情に応じた具体的な生徒指導の取組を県内各地の指導者が共有できるように研究を進め、主題を深めていきたい。

3 研究の視点

(1) 共感的な人間関係を育成する指導・支援について

他者と互いに協力し合い、よりよい人間関係を主体的に形成していこうとする人間関係づくりと、これを基盤とした豊かな集団生活が営まれるための指導・支援。

(2) 自己存在感を高める指導・支援について

他者とのかかわりの中で、子どもの独自性や個別性を大切にしながら個人のよさを集団とのかかわりの中で高め、伸ばしていくため指導・支援。

(3) 自己決定の場を与え、自己の可能性の開発をめざす指導・支援について

他者とのかかわりの中で、子どもが自ら判断・行動し、それらに責任をもつという経験を通して、自分の未来を描く自己指導能力の育成を図るための指導・支援。

4 研究を進めるにあたって

(1) 学びに向かう集団づくりのために

子どもたちの集団の特性・状況は、子どもたちの成長に大きな影響を与える。そこで、一人一人の向上のために、個へ指導・援助するとともに、属する集団を互いに高め合うことのできる「学びに向かう集団」が実現できるように、指導・援助する。

ア 帰属意識の高い集団づくり

- ・一人一人が周囲から認められていると感じる活動場面を工夫する。
- ・協力して一つのことに取り組めるように工夫する。

イ 規範意識の高い集団づくり

- ・集団ではルールが不可欠であることを体験をとおして学ばせる。
- ・子どもたちが自ら約束を決め、協力して実行できるように工夫する。

ウ 互いに高め合える集団づくり

- ・集団のために自分は何ができるか、自ら考えられるように指導を工夫する。
- ・互いに夢や目標を語り合う場や機会を設定する。

(2) 子どもが意欲的に取り組む授業づくりのために

授業をとおして学力の定着を図るために、児童一人一人が学習活動に自主的かつ意欲的に取り組めるように、指導・援助する。

ア 自信をもたせる授業

- ・認める・ほめる・励ます機会を意図的に設定する。
- ・最後までやり遂げた結果として成功体験が積めるように主体的・対話的で深い学びの指導を工夫する。

イ コミュニケーション能力を育む授業

- ・相手の話を聞いたり、自分の言葉で伝えたりする活動を取り入れる。
- ・子どもどうしが協力し合う場面や教え合う活動を意図的に設定する。

ウ 一人一人の実態に配慮した授業

- ・教育相談を意図的・継続的に実施する。
- ・学習不適応の解消に向けた組織的な指導・援助体制を整える。